

記念誌の刊行にあたって

井出 多加子

新村秀一先生は、2014年3月に退職を迎えられた後も引き続き成蹊大学特別任用教授として本学の教育研究活動に従事してこられました。同教授としての任期は2017年3月末をもって満了となり、これを期に本学部専任教員の職から離れられることになりました。

新村先生がお元気で任期満了を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。成蹊大学経済学部では、大学院や研究所などのアカデミックな環境から、大学の専任教員に就任されて教暦を積まれる方々が多いのですが、新村先生は情報システム関係の民間企業に20年以上勤務されたのち、経済学部教授として就任されたという特筆すべき経歴をお持ちでいらっしゃいます。

そして優れた研究業績と民間企業での豊富なご経験をもとに、すでに経済学部教授就任後20年にわたって、本学部のみならず成蹊学園全体の発展のために様々な面で多大な貢献をいただきました。まだまだ教育と研究にご熱心な先生が本学を去られますことは、痛惜に耐え得ないところであります。本学から離れられたのちも、現役の研究者として一層ご活躍くださることを期待しております。ここに改めて新村先生に深く感謝するとともに、本誌を先生の退職記念号として捧げさせていただきます。

新村先生は、京都大学理学部数学科をご卒業後、民間のコンピュータサービス会社に入社されました。同社での勤務の後、成蹊大学経済学部には1996年4月に経済学科教授として赴任されました。成蹊大学に赴任後は、経済学部において統計学やプログラミングなどのご専門である数理科学の分野での専門科目だけでなく、経営科学やデータの活用など、経済経営と数理統計の分野にまたがる科目もご担当いただきました。また1年次のフレッシュヤーズセミナーでは、データの見方について丁寧に学生の指導をいただき、3年次の上級演習および卒業研究では、ご自身の専門である数理計画のアプローチに基づいて、図書館サービスや民間企業の評価など実践的内容の卒業研究に学生が取り組めるよう、丁寧に指導くださいました。

新村先生が成蹊大学に赴任された当時は、経済学部は経済学科と経営学科に分かれていました。その後組織改編やカリキュラム改革を経ながら、2004年には2学科がひとつの学科に統合され、専門科目の再編とともに基礎教育や数理系科目の位置づけが見直されることになりました。そのような改革の流れの中で、新村先生は文系学部卒業の社会人に求められる数

学やデータの分析力を養うため、どのように成蹊大学経済学部の統計教育を充実させるかという、高い見地から教育に尽力されて様々な検討を行っていただき、本当に大変だったことと推察いたします。2005年から2006年にかけて情報整備委員会委員，2007年から学部人事委員会委員，2010年から2011年には入試委員会委員など，学部の重要な業務を担っていただきました。2012年からは図書館委員会委員，成蹊環境マネジメントシステムEMS監査員など，経済学部を代表して大学全体の調整を行う会議でご活躍いただきました。

このように学部と大学のマネジメントに手腕を発揮される一方で，新村先生は数理計画ならびに医療データの分析に関する著名な研究者として，本当に数えきれないほど多数の学会発表を行い，研究論文から一般ビジネスマン向けの著書まで，幅広く執筆をされてきました。新村先生が成蹊大学経済学部教授として赴任された当時，私は成蹊大学経済学部で助教授として，やっと授業や研究のペースをつかめるようになっていました。自身の研究のために必要な計量経済学の分析手法について悩むことも多かったのですが，同じ統計学分野の研究者として，判別分析や分析結果などについて真摯なアドバイスをくださいました。

先生は，朗らかで軽妙な口調でお話になりますが，ご指摘は経済学の研究者と異なる視点に立つ鋭いもので，心からハットさせられました。また，研究者として「あきらめずに信念をもって研究を続けなさい」という熱意と情熱には，何度も頭が下がる思いがしたものです。ご自身でも，何度もくじけそうになったがここまで続けてきて本当に良かった，との言葉は私の心に深く刻み込まれています。

現在日本の大学は，真のグローバル・スタンダードな教育と研究を行うべく，様々な改革を行っています。18歳人口減少と大学間競争の荒波にさらされ，成蹊大学も構造的な改革を求められています。研究に関する新村先生の貴重なご経験をもとに引き続きアドバイスを頂きたいと思っております。

成蹊大学経済学部のスタッフを様々な面から支えていただき，また計量経済学の研究者として本当に未熟であった私を育ててくださったことに心より感謝いたします。

今後ともますますお元気に研究にご活躍されることを心から祈念いたします。

(成蹊大学経済学部長)